



念じられ 照らされて

七十年の人生に誓った

近藤 龍磨



＜略歴＞
1952年、熊本県天草市生まれ。大谷大学文学部真宗学科卒業。
サラリーマンをしながら歌手生活後、大垣市墨俣町にある岐阜高山教区第11組 廣専寺に入寺、住職となり現在に至る。

明けましておめでとう
ございます。七十年生き
てきて、色んな方と出会
い、色んな環境や言葉に
育てられてきました。振
り返れば、まさに縁尊し
といえる人生を生きてき
たと感じています。
四十才を越えようとし
る時、京都東本願寺の研
修会でご講師から聞いた
お言葉。それが、二〇二
二年正月、六十九才を迎え
ようとしていた私に、突
然蘇ってきました。

「君たちは、親鸞聖人
のみ教えが大事、お釈迦
さまのお言葉が大事だと
かよく言っています。が、
その大事なことに一体ど
れだけのお金を遣ってい
るんですか？」・・・
口先だけじゃないのか
と、問い詰められたよう
にそのお言葉を聞いてい
たことを思い出していま
した。

蘇ったこのお言葉を思
いつつ、銀行の預金通帳
を開き、何の為にこのお
金をコツコツ貯めてきた
のだろうか、自分に問
うていました。
そこに凶らずも、大阪
府貝塚市のお寺で初めて
拝見した、山科専修学
院元学院長、竹中智秀先
生の直筆「如来の撰取不
捨の心に学び、真実自分
自身のしたいこと・しな
ければならぬこと・出来
ることを、他人と比べ
ず・あせらず・あきらめ
ずしていこう」のお言葉
を思い出していました。
このお言葉の存在は、以
ていくのかと思案する

前日から知ってはいました
が、直筆を拝見するのは
初めてでした。
如来の撰取不捨の心
を、「えらばず・きらわ
ず・見すてず」と表現さ
れたこの部分だけを取り
上げて、お話をされる方
は多いのですが、先生の
思いは後半の部分に集約
されていると、ずっと感
じてきました。
この竹中先生のお言葉
に向き合いながら、自分
にとつてしたいこと・し
なければならぬこと・し
出来ることとは何か？
人生の五十五年近くを、
真宗の教えに向き合い、
ある時は背き、ギターを
弾き、歌を唄い、曲を作
り、大衆音楽にひたつて
きた自分に向かつて、残
り少なくなってきた人生
の時間の中で、何の為に
お金を遣い、何を表現し
ていくのかと思案する

日々が始まりました。
そんな中でのコロナ禍
の今、「南無阿弥陀仏」
が聞こえなくなってきた
と嘆く風潮があるのな
ら、みんなにとつてより
身近に、お母さんが台所
で料理をしながら「南無
阿弥陀仏」と口ずさめる
ような、そんな曲を作り
たいと思っている自分が
いました。
念仏が、人生を貫くか
けがえのないものである
ことを、曲を通じて表現
してゆく。これこそが生
まれ変わり死に変わりし
てきた長い長い人間業の
旅の終わりに、やらなけ
ればならない自分自身の
果たすべき大きな課題で
あると感じました。ま
た、竹中先生のお心に
応じていける、自分の出来
る唯一のことだと思つて
取り組みました。
宗祖御誕生八百五十
年・立教開宗八百年を迎
えるこの時、やらなけれ
ばならないこととして、
七十年の人生への誓い
を、一つの曲に込め、完
成させました。昨年十月
十六日、岐阜高山教区の
お待ち受け大会では、大
会記念CDを制作し、皆
さんに聞いていただきま
した。その曲の名前は
『南無阿弥陀仏』と申し
ます。

報恩講を振り返つて
本年は宗祖親鸞聖人御誕生
八百五十年、立教開宗八百年
の当年であります。三月、四
月と本山東本願寺で慶讃法要
が勤まります。昨年別院報
恩講では、その「お待ち受
け」として、十一月二日の午
後の法要に、ハープ演奏者・
森清奏子氏によって「浄土の
調べ」を聞かせていただきま
した。別院本堂が清らかな調
べに満ち、聴衆の心を開いて
いきました。身も心もひとつ
となつている自分がそこに
いました。『阿弥陀経』には、
大自然が奏でる鳥のさえずり
や樹々の間を通る風の音など
が、念仏を説いていると書か
れています。ハープの音色が
浄土に誘うので、自然に念
仏の心を開いていくのでしょ
う。

御伝鈔の夕べ
また当日夕刻六時半からは
『御伝鈔』（親鸞聖人御一代
記）の拝読がありました。例
年は澄んだ高い声のみでの拝
読ですが、本年は日本で最初
の試みとして、拝読に合わせ
て楽器による荘厳な音を奏で
ました。演奏者は高山在住の
音楽家・曾爾テラワキ氏で、
種々の楽器を使い、聖人の生
涯を拝読の言葉に合わせて奏
でられました。
拝聴しながら音楽となつて
聖人が登場したような感銘を
受けました。本堂内は消灯し
て、光は灯明のみ。ゆらぐ灯
明の動きと奏でる音楽は、拝
読の声をいよいよ荘厳にし
ていきました。
念仏が聖人を証明し、聖人
が念仏を証明しているのだし
た。
長い救済の歴史が飛驒御坊
でひとつの感動の表現となつ
た『御伝鈔』拝読でした。こ
れも皆さまのご協力であると
厚く御礼申しあげます。
なお、翌日三日には、鍵役
信悟院殿のご参修のもと、
百五名の方々が帰敬式を受
け、名実ともに真宗門徒とし
て誕生されました。本年も多
くの方々が受式されることを
願っております。
本年のご坊報恩講は更に意
義深い仏事になるよう皆さま
と共に迎えたいと思います。

謹賀新年

高山別院輪番
三島多聞

報恩講を振り返つて

種々の楽器を使い、聖人の生
涯を拝読の言葉に合わせて奏
でられました。
拝聴しながら音楽となつて
聖人が登場したような感銘を
受けました。本堂内は消灯し
て、光は灯明のみ。ゆらぐ灯
明の動きと奏でる音楽は、拝
読の声をいよいよ荘厳にし
ていきました。
念仏が聖人を証明し、聖人
が念仏を証明しているのだし
た。
長い救済の歴史が飛驒御坊
でひとつの感動の表現となつ
た『御伝鈔』拝読でした。こ
れも皆さまのご協力であると
厚く御礼申しあげます。
なお、翌日三日には、鍵役
信悟院殿のご参修のもと、
百五名の方々が帰敬式を受
け、名実ともに真宗門徒とし
て誕生されました。本年も多
くの方々が受式されることを
願っております。
本年のご坊報恩講は更に意
義深い仏事になるよう皆さま
と共に迎えたいと思います。

※拝読の様子はYouTubeにて
動画で視聴いただけます。

今回の拝読は『御伝鈔』の
〈上巻〉でした。

2023年の報恩講
では、〈下巻〉が
拝読されます。



聖教学習会のお知らせ

講師 マイケル・コンウェイ氏
(大谷大学准教授)
テーマ 『安楽集』に学ぶ 一時機の自覚一
日時 1月30日(月) いずれも
2月14日(火) 午後1時30分から
3月7日(火)
会場 別院会館2階 研修室
参加費 1回 500円

第41回 真宗公開講座 (参加費500円)

第2回 1月17日(火) 講師 藤井慈等氏
(三重教区 慶法寺前住職)
講題 首の飛ぶような念仏
第3回 2月1日(水) 講師 狐野秀存氏
(大谷専修学院 学院長)
講題 真宗の生活
- 安心と法義 -
いずれも午後2時から 会場は別院御坊会館

仏教×グリーンフケア 23

尾角 光美

物の整理とグリーンフケア

みなさん、新年、どのような気持ちでお迎えでしょうか。年末に、片付けや大掃除をされた方も多いかと思います。私自身は片付けがとて苦手で、物を捨てることとがうまくできません。かといって、とつてあるものを整理するの

しようか。

日頃の片付けもそうですが「遺品整理」となると、より難しいと感じる人もいます。遺品整理のプロセスはまさに「グリーンフケア」、なくしたことを大切に、なくした人につながる営みであります。もちろん、大量に遺された「物」がある場合は、本当に大変なことと思います。ただその中で本当に残したい物、取っておきたい物、考えることもできます。

私は母を十九歳で亡くしているのですが、母の死から十日後には東京から京都へと大学進学のために引越した。兄を実家に残す形になりました。その十年後に警察から受けた、突然の兄の死の知らせ。死後二週間以上経過して自宅で遺体が発見されたため、借家である実家にある物すべてを一瞬にして手放すことになりました。

亡くなった後の部屋は私が入れる状態ではなかったため、清掃業者さんから借りた防護服のようなものを着て、葬儀社と僧侶の友人たちが中に入って通帳や貴重品にあたる物をできる範囲で探し出してきてくれました。その時に「何をとつてきてほしい？」と言われて、ぱつと思いつかんのが「カメラ」でした。兄はずっと写真が趣味で、歳の離れた妹である私の小学校時代、運動会などはいつもカメラ片手に撮りにきてくれていました。その兄がずっと持っていたカメラだけは、手元に残したいと思っただけです。もちろん、他にも兄から買ってもらった本や、思い出の物は色々あったと思うのですが、長時間その部屋で友人たちと一緒に作業をさせるのは申し訳ないと思ひ、一つだけ、カメラをお願いしました。

物がなかった時代から物があふれるようになった時代の変化を知っている、ご年配の方が亡くなられた時、遺されていくものはそれなりにあるのではないのでしょうか。リヴォンの講座卒業生のお坊さんたちから聞いたのは、「ゴミに出すのはしのびないから、お焚き上げでもしてもらえないか」という相談がよくあるということでした。そのお寺が元々お焚き上げをする、しない、宗派に関係なくそうした相談をされるそうです。そうしたことを踏まえると、日本人は本当に「物」をただの物以上に大事にしてきたことがわかります。そうした物たちとの対話を試みるのも一つです。誰かと一緒に、物の整理をする中で、その物にまつわる記憶に触れる時間を改めて持つてみるのも、新年の過ごし方としてよいかもしれません。

次号の『ひだご坊』発行は3月1日となります。

別院定例法座

午後1時から

3日 三目のご坊

- 1月 講師 澤邊 恵亮氏 (誓願寺住職) 講題 「念仏もうさるべし」
2月 講師 橋 出氏 (岐阜高山教区駐在教導) 講題 「信順を因とし 疑謗を縁として」

28日 親鸞聖人ご命日法座

- 1月 講師 細川 宗徳氏 (蓮乗寺住職) 講題 「唯可信斯高僧説 -ただこの高僧の説を信ずべし-」
2月 講師 小原 正寛氏 (専念寺副住職) 講題 「老いがい」

ひだご坊

一口法話

URL: https://hidagobo.jp/sermon/

1月1日から2月28日の期間は下記の方々の法話を随時掲載してまいります。

- 細川 隆一氏 (浄慶寺候補衆徒)
井野 了慧氏 (教務支所書記)
森 恒河氏 (秋聲寺住職)
白尾 公信氏 (了心寺住職)
小原 宗成氏 (圓龍寺住職)
北條 秀樹氏 (了泉寺住職)
旭野 康裕氏 (永養寺住職)
三島 大遵氏 (真蓮寺住職)

大谷婦人会 定例法座

1月11日 (水) ※新年互礼会

2月11日 (土)

講師 三島多聞 別院輪番

いずれも午後1時から

あけましておめでとうございます 本年もよろしくお願ひいたします

お墓の新設 リフォーム クリーニング 墓じまい 各種石工事

石のことなら ご相談・お見積り無料!! 株式会社 奥田石材 OKUDA

0577-33-9601 [本社] 高山市新宮町2498-1(新宮小学校前)

0577-32-1483 [展示場・工場] 高山市国府町上広瀬137-1

お仏壇



謹賀新年 笑顔いっぱい とても心が やすらぐ 幸せな年に なりますように

6日(金)より

初売り

仏壇工芸 ほりお

高山市三福寺町369-7

TEL 0577-33-6686

保険タイム

〒506-0059 高山市下林町916-1 各所へ出張訪問中 TEL 0577-35-1005

ブックス・アイオー 「お寺の掲示板」 江田智昭著 TEL 0577-34-1766

寒いタイルの浴室を 「そのまま暖ったがリフォーム」 温度差でおこる『怖いヒートショック』対策 ユニットバスへの換えの半額以下 [断熱サッシ・暖房機も含む] 早くて安い 70件以上の実績有 『暖かく快適になった』と [手摺等も取付可能] 皆様に大変好評です 予算に合わせて工事できます 御相談下さい [お見積無料] 気軽にお電話下さい TEL 32-2577 高山市七日町3-102 (株)小林ベニヤ

慈愛・共なる灯り 高山電気工事株式会社

自主出版 編集・出版までお手伝い致します 山都印刷株式会社 高山市西之一色町二丁目九〇一八 TEL 0577-33-1149

久寿玉 KUSUDAMA 謹賀新年 久寿玉 平瀬酒造店 TEL 34-0010

印刷 1月~3月キャンペーン 名刺・20枚1,000円~ 封筒・長3クラフト 50枚2,500円~ 印刷全般、SNS広告運用、ホームページ制作、ドローン撮影、ドローン測量、農業ドローンセンシング 高山市桐生町7-150-3 有限会社リブプロ TEL 0577-35-0350 E-mail: info@libro-ops.net

お墓の修繕 修繕や移転、クリーニング等 お墓の悩み 解決します。 高山墓石店 090-7677-4883 〒506-0814 高山市滝町1362 https://www.takayamaboseki.com/